

沼津西ロータリークラブ



2025～2026 年度・クラブテーマ

「手を取り合い行動しよう」

会 長 杉山 真一 / 幹 事 富岡 由樹

第 1568 回 第 35 巻 27 号 2026 年 3 月 5 日

■■ 本日のプログラム ■■

外部卓話 地区米山学友会 青山チャリット様

■3月のプログラム■

1569 回 12:30 03 月 12 日(木)	外部卓話 乳腺・外科医 大澤浩一郎様 理事会⑩ アアガ-デン迎賓館
3 月 19 日(木)	祝日週休会
1570 回 12:30 3 月 26 日(木)	インターアクト活動報告 加藤学園高校 IAC アアガ-デン迎賓館

例 会 場 〒410-0046 沼津市米山町 3-37
アアガガーデン迎賓館沼津
TEL 055-920-5200

事 務 局 久松会計事務所内
TEL 055-961-2050 FAX 055-961-2600
E-mail: numawestrc@gmail.com

例 会 日 毎週木曜日 12:30 点鐘

公共イメージ向上委員長 山本宜司 / 編集者 小野 洋子

出席報告 会員数 21 名

例 会	会員数	出席数	出席率
1568 回	21 名	18 名	77.78%

会長挨拶

● 会長 杉山真一 ●

三月に入り、春の気配が感じられる一方で、今年
は例年以上に寒暖差が激しく、急に暖かくなった
かと思えば、翌日には冬に逆戻りしたような冷え
込みが続くなど、気候の不安定さを強く感じる日
々です。全国的にも記録的な暖冬や突発的な寒波
が報じられ、気候変動が私たちの生活に及ぼす影
響を改めて実感しております。どうぞ皆さまにお
かれましては、体調管理に十分お気をつけいた
きたいと思います。

さて、本日の例会では、米山学友会より青山
チャリット様を卓話者としてお迎えしております。
青山様、本日はご多忙の中、沼津西ロータリー
クラブにお越しいただき、心より歓迎申し上げます

。ロータリーの国際奉仕の中でも、米山記念奨学事
業は日本発の民間奨学金として、長年にわたり多
くの留学生を支え、国際理解と平和の促進に大き
く貢献してきた誇りある取り組みです。奨学生と
して日本で学び、卒業後も「学友」として世界各
地で活躍されている皆さまの存在は、ロータリー
の理念を体現するものであり、私たちにとっても
大きな励みとなっています。

ここ静岡・山梨をエリアとする国際ロータリー第
2620 地区では、「2620 地区米山奨学会」を設け、
地区独自の支援体制を整えています。地区内クラ
ブの寄付をもとに、より地域に根ざした形で留
学生を支援し、奨学生とクラブ、そして地域社会
との交流を深めてきました。地区としてのきめ細
やかなサポートは、奨学生の皆さんが安心して学
び、地域に溶け込み、将来にわたって日本とのつ
ながりを持ち続ける大きな力となっています。

本日も登壇いただく青山様も、まさにその学友
の一人として、日本での学びや経験を糧に、国
際社会との架け橋として活動されていると伺っ
ております。異なる文化の中で学び、挑戦し、成
長されたご経験は、私たちの活動にとっても多
くのヒントを与えてくれることでしょう。

本日は、青山様のこれまでの歩みや現在の活動、
そして米山奨学事業への思いなどを、ぜひ率直
にお聞かせいただければ幸いです。会員の皆さま
にとっても、国際奉仕の意義を改めて見つめ直
す貴重な時間となることを期待しております。

●ゲスト

地区米山学友会 青山チャリット様

●ビジター

なし

●欠席者(4 名)

羽切勝利、鈴木和憲、山田和典、山本宜司

●他クラブへの出席者

植松 正、下田朗弘(2/28 地区チームセミナー)

●スマイル報告

1.杉山真一、2.本村文一：本日、地区米山学友会 青山チャリット様、卓話よろしくお願ひします。

3.植松 正、4.潁川ゆう子、5.富岡由樹：入会記念日のお祝ひありがとうございます。

6.潁川ゆう子：2月は、休会してしまい、申し訳ありませんでした。

幹 事 報 告

1.他クラブの例会変更等

①沼津 RC

3/20(金) 休会 MU:無

②富士山吉原 RC

3/12(木) 夜間例会に変更 MU:無

3/26(木) 休会 MU:無

③沼津柿田川 RC 3/18(水) MU:無

3/25(水) 4週目の為例会は無 MU:無

2.報告・連絡事項

①次週は、例会後、理事会がありますので、各理事は提案資料の提出をお願いいたします。

②先日、事務局からメールした台湾国際大会での地区ナイトへの登録希望の方は、本日閉会までにご連絡ください。

外部卓話

地区米山学友会 青山チャリット様

【卓話題名】

外国人と共に生きる日本へ — 誤解と現実、そして地域の役割

日本では少子高齢化が進み、労働力不足が深刻化

する中、多くの外国人がさまざまな分野で働き、地域社会の一員として生活しています。

一方で、外国人に対する不安や規制強化の動きも見られ、外国人にとって生活しにくい環境になりつつあると感じる場面もあります。

外国人に関する問題が報道されると、一部の事例によって外国人全体のイメージが悪くなる場合があります。

しかし、問題を起こすかどうかは国籍ではなく個人の問題であり、多くの外国人は日本のルールを守り、真面目に働きながら社会に貢献しています。

また、外国人をめぐる課題の中には、制度や受け入れ体制の未整備が背景となっているものもあります。適切な制度と支援の充実が、トラブルの防止と円滑な共生につながります。

私自身、日本で生活する中で、外国人であることや外見によって住居の入居を断られた経験があり、制度と現場の間にある意識の課題を実感しました。

これからの日本において、外国人との共生は持続可能な社会のために不可欠です。外国人を労働力としてだけでなく、地域で共に暮らす生活者として理解し、相互の信頼を築くことが重要です。

